職員のみなさんへ一言メッセージ（第１００回）

一言メッセージも書きに書いたもので、１００回目を迎えました。私の拙いしかも、自分勝手な思いを書いた文書を読んで頂いているみなさんに御礼を申し上げます。その時々の思いを伝えるために、どんなに忙しくとも２５日の給与日には、何とか間に合うように書き続けて来ました。一回一回は、大したことは書けなかったかもしれませんが、１００回という積み重ねの重みは、意味があると思われます。これからも、どうか宜しくお願い申し上げます。

さて、最近、「人生と経営はタクシー運転手が教えてくれる」という本を読みました。なぜ、読む興味が湧いたかと言いますと、若いころは、宴会が続きで、良くタクシーで帰っていました。今は、夜の街で飲む機会もめっきり減り、足もホロつきますので、できるだけ事故に遭わないようタクシーで帰っています。

私はタクシーに乗るとまず、運転手さんに行先を告げた後、「最近、お客さんは多いですか」と聞きます。その次に、「夜の街は賑わいますか」と尋ねます。

実は、タクシーと夜の街が賑わうということは、世の中の景気が良いという証拠であり、賑わうという答えが返ってくると、ホッとした気分になります。

また、運転手さんの人生経験を聞くのも楽しみの一つです。特に、最近は、運収（売上）が上がらなくなったため、異業種から入ってきた高年齢の運転手さんが増えています。その分、人生経験が豊かな運転手さんが多くなり、運転手になる前の話など、様々な話が聞けるようになりました

本の著者は「小宮一慶」という経営コンサルタントの方で、「人は、どんなとき、どんな人からも学ぶことができる。どんな人も、状況も、自分に気づきを与えてくれる「師」たりうることを、運転手さんは教えてくれました。」と著書の中で述べられています。

私ども真和館にもいろいろな入所者さんがおられます。障害をお持ちのために、スッポリ記憶が抜けて昔の話が今現在の話にすり替わったり、自分勝手な思い込みだったり、話の内容が支離滅裂だったり様々です。

しかし、このような言動から学ぶことも出来ますし、話の中味に、本人の願いや思いといった本音部分が隠されていることもあります。福祉の世界では、傾聴や寄り添った支援を大事にしますが、それだけでは、根本の問題が解決されず、同じ要求が繰り返し続く場合も有ります。忙しい毎日ですが、時には、何を訴えたいのか真剣に検討してみれば、ひょっとすると思わぬ気づきがあるかもしれません。これが、真因ではないかと気が付いたら、解決に向けての仮説を立て、１０分間ケース会議、１分間ラポール、３０分間ラポールなどを上手く利用し、試行錯誤をしてみることです。もし、仮説が的中し、その方の言動を変えることができたら、これこそが、福祉の仕事の醍醐味だと思います。

平成２６年７月２５日　　　真和館施設長　藤本和彦